

文章構成を意識したメディア表現の研究

—ニュース番組の分析と制作体験を通して—

岡山市立津島小学校 教諭 三宅 貴久子

kikuko@po.harenet.ne.jp

キーワード：小学校，5年，国語科，社会科，番組製作，カリキュラム，ループリック

1. 研究の目的と問題意識

本企画は、『子どもたちが情報に対して受け身的である』という実態を受けて、受信者側から発信者側に子どもの目線を転換し、情報に対して自分がどのように向き合えばいいのかについて考えさせたいという教師の思いから出発している。実際には、子どもたちがニュース番組を製作するというゴールを設定し、社会科と国語科を関連づけた単元を設計した。このような学習活動は、メディアリテラシー教育等とも関連して、よく取り組まれている。しかし、どちらかというと子どもの意欲面への効果を考えて映像・音など、言葉以外の要素が重視されがちな製作活動が多いように思う。しかし、今頃の子どもたちは活字離れの傾向があるといわれる現状の中で、もっと番組を通じて流す言葉に着目させるべきではないかと考える。

そこで、今回は、国語科「ニュースを発信しよう」の単元と社会科「わたしたちの生活と情報」を関連づけたカリキュラムを考え、子どもたちに、言葉に着目し情報に対して客観的・体験的に考えさせ、自分が情報に対してどのようにかかわっていけばいいのかについて自分なりの考えをもたせたい。

以上のような教科を関連させた取り組みで培った基礎・基本は様々な場面での発信活動につながるのではないかと考える。今回の企画で、確かな学力を育成できるためのメディア表現の単元プラン及び評価の在り方について明確にできることを重要課題ととらえている。

2. 実践の概要

(1) 対象：5年生 31名

(2) 単元：「ニュースコンテストをしよう」
(国語科と社会科)

(3) 目標

●分かりやすく工夫して放送原稿を書き、ニュースを発信することができる。(国語科)

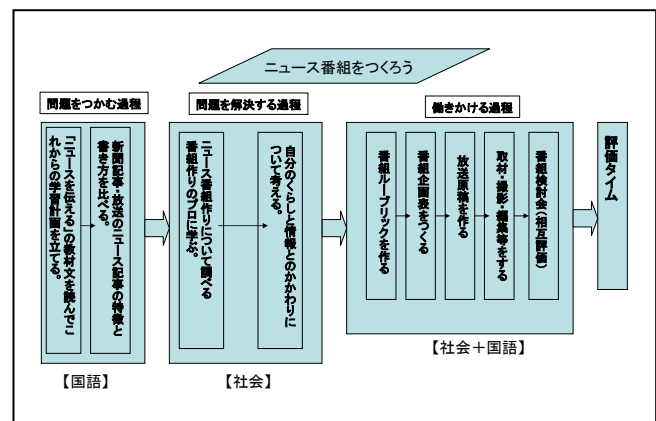
●わたしたちの身の回りにある多種多様な情報の中から、必要とする価値ある情報を見分けて収集し、情報の働きや意味を考えて発信しようとする。(社会科)

(4) カリキュラム

図1のように、問題解決学習の中に、国語科と社会科を別に位置づけたり、融合させたりして学習を展開した。国語科や社会科の学習で学んだことが、自分たちのニュース発信に生きるように評価活動も重視した。

(5) 使用した機器

・デジタルビデオカメラ5台、デジタルカメラ10台、編集用ソフトとコンピュータ2台、マイクと三脚3セット



3. 成果と今後の課題

(1) 成果

・問題解決の過程に、国語科のねらいと社会科のねらいを問題解決のプロセスの中に有機的に位置づけることによって、子どもの意識の流れを大切にすることができた。

・子どもとともに番組ループリックを作成したことによって、映像・音などの要素だけに目が向くことなく、伝え留目的を意識し、相手に伝わるための要件を意識しながら製作活動に取り組むことができた。

(2) 今後の課題

・「ニュース番組をつくらう」カリキュラムの評価

・番組ループリックの吟味・修正

・番組製作に関する技術的なサポート体制の工夫